

農園便り 6

月号(特集) (113号)

文責 筒口 典康

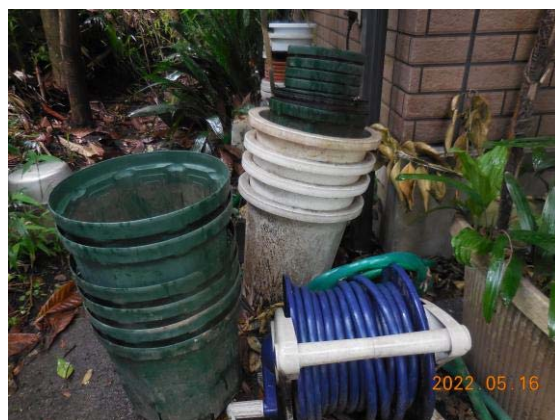
(2022/06/15)

誠に残念なことなのですが、5・6月号の報告のように、関町南3丁目の区民農園33区画、ほぼ全体に除草剤が撒かれてしまいました。夏野菜のトマト、ナス、キュウリ、ピーマン等の夏野菜が全滅に至りました。懲りない私。何とかします。(4/22) しばらくは、除草剤被害の対応記事が多くなります。

2畝は、野菜花用の「土」を購入し、新に土を入れ替え(客土)て、キュウリ、ナス、トマトを植えてみました。トマトにキュウリに花が咲いて、第1果が着きました。しかし、株の先端の黄変が始まった。キュウリ、ピーマン、シシトウも再び枯れてしまいました。夏野菜2度目の全滅。客土後も、除草剤が浸透してくる。かなり高濃度の除草剤が撒かれたようだ。(5/4) 目撃者あり。

ネギ類が一番弱い。玉葱、葱、ニラのユリ科。アブラナ科は、イチコロ。イネ科のトウモロコシ、レモングラスも弱い。キク科では、シュンギク、レタス、食用菊、タンジー・マジイ、ユウゼン菊。ヒルガオ科のサツマイモも。マメ科ではサヤエンドウ、インゲン、枝豆もアピオスもだめ。ヤマノイモ類は根が出ない。芋が腐る。植える野菜が無い。除草剤に、手も足もでない。

今(5/15)、元気に育っているのは大きめの鉢で越冬したオカワカメ。ヤマノイモとインゲン、食用菊。いずれもコンテナと鉢植え。今年始めていただけなのはオカワカメ(雲南百薬草)、次はモロッコインゲン。新た畝に植え直した夏キャベツ。薬を掛けられなかった里芋。夏の3大果菜(トマト・キュウリ・ナス)は全滅。収穫できても、除草剤を吸収していよう食べるのが怖い。



5/12 コンテナ隣の玉葱消失 潰し若竹でマルチした茄子トマトも枯れる 肥料溝の上に板を敷く キャベツの苗を植える 里芋の元気な芽

5/16 大き目の鉢 スリット入り鉢 大鉢は、野田造園でいただいたもの

これからは、「鉢栽培」、「袋栽培」をしていきます。幸いスリット入りの鉢がありますので使ってみる。鉢底に 100 円ショップで仕入れた竹炭を入れましょう。(靴の除湿の製品) 何でも安く手に入る物を探して、使う。探す。

「花・野菜用土」「蟹殻」は、(芝勝)で購入。「ダルマ堆肥」(タキイ)。「みのり堆肥」(石神井農協)。小庭で出来た「堆肥」。コンポストで作っている「ボカシ堆肥」。農園 33 区で作っている未熟堆肥も。手持ちの「牡蠣殻石灰」も「草木灰」も使いましょう。仏壇の線香の「灰」も。苗は、(オザキフラワーセンター)で買えると思います。近所の「芝勝」でも。再々再度の挑戦だ。

大鉢は、近くの野田造園でいただいた物である。世田谷の中学校で、「一人、一鉢」で、サツマイモを作らせました。「栽培学習」です。その時の鉢がありました。丁度良い機会なので使っていきたい。

5月16日、「やさしい畑」竹村氏来訪。 今後の発行の見通しなどを伺かがう。

『「鉢栽培」や「袋栽培」も良い工夫であります、段ボール箱を重ねて鉢状に積み上げる方法も聞いています、やっでごらんになると良いと思いますヨ』と、ヒントをいただきました。やってみましょう。

トマト、ナス、キュウリ、万願寺トウガラシ、激辛トウガラシ。それぞれ 1 本ずつ、やってみようか。実験栽培をしてみよう。夏野菜が無いなんて、寂しいもんですから、一本ずつ作ってみます。「やさしい畑」の『夏野菜の報告をしてほしい』と言うご要望には、応えられなくなった。

葉物野菜も食べたいです。「混播」でやってみよう。除草剤に強いもんが生き残るであろうから蒔いてみます。勝ち残りを期待して播いてみます。混播では、ダイコン、コマツナ等の強勢な野菜が先に繁茂します。少ブロック作りが良いのですが、今回はあえて、「混播」。どの野菜が除草剤に強いのか、試してみます。何が除草剤に強いのか、やってみます。今のところ、毎日、収穫 0。

安心安全の野菜 有機・無農薬栽培で、美味しく安心・安全な野菜を育てる。更に、1 年目から収穫が出来る。そんな野菜作りを考えております。

根拠は何か、堆肥+化成 8・8・8 で作る簡易農法を進めていくと病虫害が寄ってくる。化成肥で肥満、N・P・K 特にN肥過多に傾くと病害・虫害がやってきます。そこで薬剤散布が必要になってくる。

有機物は、一度無機物になってから植物に吸収される。ドイツの農学者リービヒが言う。そこから、必要な養分を無機物で与え始めた。第 1 次大戦後、革命的な農産物の増産を成し遂げた。科学肥料の乱用が続いた。土中の生命体が失われ、病・虫害が多発し人類を脅かす。その対策に多量の農薬が使われ、「土中の生命」が失われていく。化学農薬で、更に拍車をかけ、「沈黙の世界」が、始まる。

ミミズも居ない。モグラも、蝶も、蛾も、蜂も、アブも、蠅も、オケラも、カエルも、鳥も、居ない。ネズミも。沈黙の世界が始まった。土は「土」

でなくなった。ズバリ、表土層が、月か火星の砂と化していく。生命の無い土砂に化していく。

有機の成分(肥料)を施すと、細菌類・菌類・土中生物が、分解・合成を始める。各種のアミノ酸、糖質、微量成分の取り入れられた(キレート)タンパク質…。それらを植物体(根毛・根・茎・葉……)から吸収されて植物体を作る。植物は、澱粉、糖分、脂肪分、タンパク質、などを必要に応じて合成する。多様な有機成分を吸収して、**病虫害を忌避する成分**。旨味成分。香り、臭い。植物の品種ごとに違う成分を。それらを野菜たちは必要に応じて合成する。

「元気野菜」「健康野菜」には生命維持成分が満ちている。栄養分が満ちている。農薬は必要無くなってくる。安全安心な野菜が作ることが出来る。 必要なら、ストチュウ・コーヒ液の散布ぐらいで済むのであります。植物は低分子の有機物を吸収するのであります。病虫害忌避の成分を作るのであります。「有機肥料栽培」は、有効なのであります。⇒「自然農」を目指すことになる。

枇杷の実が、色づいてきました。ビルベリー(桑の実)、ビックリグミも。次いで山桃。ジャボチカバの黒い実が。

ジャボチカバ 3月30日、第1回目の収穫。薄緑の小さな実がビッシリと着いている。これは、2回目の軍団だ。隣の幹には、小さい花たちがこびり付く。第3回目の収穫をもたらす花たち。この状態が、年に3回発生する。旨く行くと、このパターンで、年に9回の果実が採れるということになる。晩秋から冬季は、加温が必要になる。(温室か暖かい居間に置く)

お味の方は、品の良い甘さ。熟度によって香りや甘味が変わる。お酒になっていたり、とても甘かったり。過熟になって傷みやすいので店には並ばない。千葉の津田沼の友人に2鉢あげました。『今年も成ったヨ』と連絡が来る。津田沼は暖かく無加温で越冬できる。『千葉では、葉は落ちてしまう』と。

12～14度の加温があれば、葉も落ちずに、冬も実る優れた熱帯果樹である。樹高も1m50cmで収まる。生活クラブ生協で買った有機肥料を与える。ジャボの落ち葉はそのまま鉢の上に置く。果皮も種子も鉢の上に置く。置く置く。置くだけ。

イチジク 今年はイチジクの苗を植えてみました。テッポウムシ(カミキリムシ)にやられて枯れてしまいまして、いただけなくなって、4年も経つたでしょうか。

姪の洋子さんのお宅にあげたイチジクも虫が入ったとかで、カミキリムシに弱い。根元近くを穴だらけにしてしまい、枯れてしまう。防蟻剤か、蜂などの殺す薬を冬場に根元近くにかけておくと良い。薬害が怖い方は、石灰硫黄合材の原液を幹に刷毛で塗る方法をお勧めします。中国などに行くと、街路樹に使われるクスノキの根元に塗られているアレです。塗った後が白くな

っていることに気づいた方もおられると思います。 冬場に塗ります。

ヤマモモ ヤマモモは関西以南に自生している大層強勢な樹木で、小指先ぐらいの赤い実を付けます。 品種改良されて、5百円玉位の大きさのものが出てきました。 このヤマモモの実は、大層傷みが早いので、お店には並びません。 独特な香りと甘味。 美味しい果物です。 植えてから10年ぐらい経たないと実が付かない。 街路樹、公園に、庭木として、雄木が植えられている事があります。(井草の野球場の南側の街路樹) その場合には、雌木だけ植えればよい。 近所に雄木を確認して植えます。 花粉はかなり遠方まで届くようです。 私の所は井草球場に近いので雌木だけ2本植えてあります。 実が付くとその重みで枝が垂れ下がる。 樹下にネットを張って落ちてくるのを待つ。 バケツに何杯も採れます。 甘露甘露。 ヤマモモは、樹勢が強すぎるので困ります。 2階の屋根を超えました。 1階の高さで切り詰めることにしました。 伐採すると2年程、実がなりません、大きくなり過ぎました。

関町南3丁目区民農園を巡回している「田中造園」さんに伐採の依頼。見積もりの電話待ち中。 お隣りさんにもそのように伝えました。 『去年は野田さんでしたね』 「野田さんは、私と同期、高齢で、もう出来なくなっているようで・・・」と私。 ヤマモモは暖帯照葉樹なので、寒地には育たない。

初めてヤマモモの実に出会ったのは、高校3年の時の京都天龍寺の庭でありました。落ちて実を拾って食べました。「これは美味しい!」。 其の後、中3の子供たちと度々聖護院ホテルに泊まりました。 先生達には山桃の果実酒と、小皿に実が。 こんなに美味しい実・・・、「ヤマモモ」の名を知りました。

千葉県房総では、台湾サルが増殖中。 ハクビシンもキョンも。 日本サルとの混血種も大繁殖。 生えているヤマモモの実を襲撃する。 農作物の被害で、困っている。 ヤマモモも、店には並ばない。

熟した実を焼酎と砂糖で、漬ける。 美味しい果実酒が出来ます。 先ずは品種物のヤマモモを植えましょう。 7~8年待つと実が採れます。 植えない実は成らない。 テラスで「大鉢作り」も出来る。 鉢で作ると熟期が早くなります。 少⇒中⇒大鉢と順番に植え替えていきます。 庭木として植えるなら、実の付く雌木を植えましょう。



5/20 トマト列全滅 サヤエンドウ跡に「鉢栽培」 5/20 サツマイモ列全滅 その南側に、薬物野菜「混播」
誠蓮(姫蓮根)苗を中央作業路の隣に並べた、コンテナ水槽に植えてみる。(5/21) t